

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	59	大学等名	山形大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、統括運営部を設置し、学長を中心とする全学統一的なカリキュラム改革が進められたことに加え、3種の基盤力テストや各種学修調査の結果の分析に基づいて、教学改革を進めることができ、さらには、各種教学データやディプロマ・サプリメントの表示にも使用できる YU ポータルをスマートフォンのアプリとして開発したことなどにより、大学改革が加速されたと高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、3つのポリシーに基づく体系的な教育が実施され、教育成果の客観的評価と外部評価の体制が構築されており、必須指標についても、目標値に到達していない指標が見受けられるものの、それらについても目標値の達成まではあとわずかであることから、取組による成果が表れているものと評価できる。しかし、当該大学の目指す「学生教育を中心とする大学創り」「豊かな人間性と高い専門性の育成」という学生育成の観点からの本事業の実施状況については不明確であり、実施過程を綿密に再検討することが必要である。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長主導型の教学マネジメント体制が構築されており、基盤力テストの結果分析に基づいてカリキュラムがチェックされ改善されるという PDCA サイクルが機能していること、また、本事業により雇用された IR 担当教員は既に任期の定めのない教員として雇用されており、キャリア担当教員及びフィールドワーク・PBL 担当教員についても令和2年度中に学内経費での雇用を目指していることに加え、地域連携組織も機能していることなどから、補助期間終了後も本事業が継続的に実施されるものと評価できる。その一方で、任意指標である「入学満足度肯定指数（4年次）」の目標値未達が示すように、教学改革が学生の入学満足度の向上と結び付かないなど解決すべき課題が残った。これまでの事業実施過程において収集された客観的エビデンスの経年的分析が不足しているとも考えられることから、本事業の継続・発展のためには、更なる改善が求められる。

事業成果の普及については、本事業の中核をなす基盤力テストが、学生の基礎的能力や学修到達度を客観的に可視化するものであり、また、ルーブリック評価と異なって観点統一の困難さや教員間のノーミングという不確定さを避けることができること、学生所有のスマートフォンを利用できることから、個々の大学の特殊条件を超えて利用できるという汎用的利点を持っているため、国内の諸大学の関心を集め、国際的な議論の場にも加わることができている。このように、一般的水準を超えて普及が図られている点は、高く評価できる。